

② 近代の学習でのワンポイント活用例 ～ “動くグラフ” で人口の推移の予想を立てる～

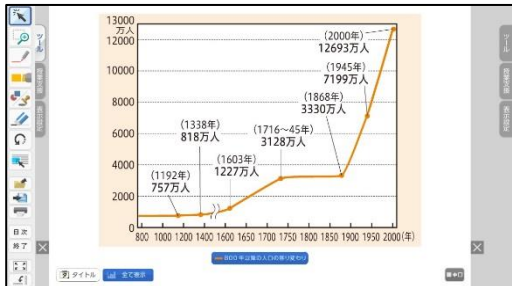
富山県立南砺福光高等学校教諭 吉田 英文(よしだ ひでふみ)

◆**単元名**:第6章 近代の日本と世界「資料から歴史を探ろう⑤ 人口からみた日本の歴史」(教科書 p.183)

◆**本時の目標** :

日本列島の人口史を概観するなかで、人口と食糧生産、工業化、移民、少子高齢化などとの関係を理解する。グラフを活用し、大幅に人口が増加している時期や、増加から減少に転じた時期などに注目させ、その要因を考察する力を身につけさせたい。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材																						
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ●世界ランキングのクイズ。1位(中国)と2位(インド)を隠した世界の人口ランキングを上位11位まで示し、何のランキングか問う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11位に日本がランクインしており、国土面積が小さいわりに人口が多いことを補足する。そして現在の日本の人口を確認し、古い時代も同程度の人口だったのかと問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自作プリント「世界の人口ランキング」 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>アメリカ</td><td>インド</td><td>ブラジル</td><td>パキスタン</td><td>ナイジェリア</td><td>ハンガリー</td><td>ロシア</td><td>メキシコ</td><td>日本</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">「world population prospects」(2015)による</p>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			アメリカ	インド	ブラジル	パキスタン	ナイジェリア	ハンガリー	ロシア	メキシコ	日本
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11															
		アメリカ	インド	ブラジル	パキスタン	ナイジェリア	ハンガリー	ロシア	メキシコ	日本															
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ●縄文時代から現代にいたるまでの人口をクイズ形式で問いかける。 ●人口の増減や停滞の要因を、平均寿命や食糧生産、移民などの視点で考察させる。 ●今から100年後の人口を予想させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代は人口2万人で平均寿命が約15歳であることなど、最初は人口の少なさや寿命の短さに驚く生徒が多い。ただ、それだけでは単調になる。そこでデジタル教科書のグラフを活用し、人口の増減を予想させたり、人口の変化が特徴的な場面を取り上げたりして、要因を問いかけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書(p.183・右グラフ) 〈プロジェクタでスクリーンに映す。〉  <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書で p.183 のグラフ「800年以降の人口の移り変わり」を活用する。教科書とは異なり、グラフの線を少しずつ表示させることができるのが利点である。適宜、グラフの動きを止めながら予想させたり発問したりする。 																						
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ●少子高齢化の進展と移民について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえりシート」に授業の感想と、少子高齢化が深刻化する日本の展望や移民政策についての意見などを記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料 NHK 教育「高校講座 地理」(2009年2月18日放映。フィリピンの介護士養成学校への取材 VTR の内容。) 																						

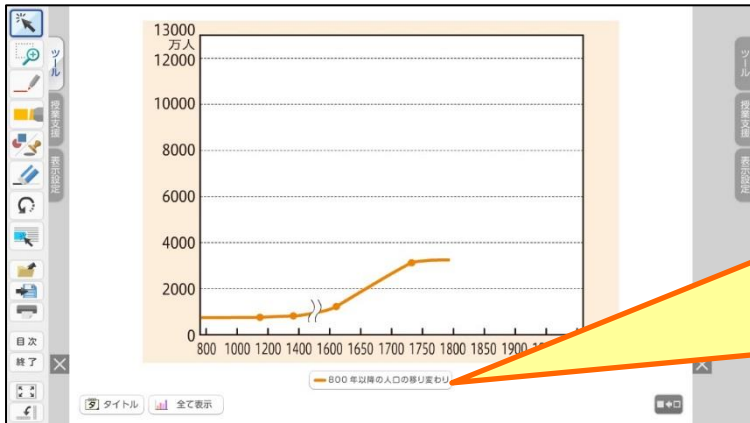
◆指導にあたって：

○少子高齢化や移民問題など「人口」は、現代や今後の社会を考えるうえでも重要なキーワードである。歴史的分野で長期的な人口の推移を取り上げることは、大きな視点で現在や未来の問題に向き合う力を養うことになる。その際、一方的に知識を与えるのではなく、グラフの読み取りなどの活動を取り入れ、資料を読み取る力も身につけさせたい。

○授業の詳細については、教育出版の『Socio express (中学社会通信)』(2015 年秋号)に「歴史学習とシチズンシップ」を掲載しており、こちらを参照していただくと幸いです。

◆デジタル教科書活用のねらい：

やはりデジタル教科書を活用することで、印刷物の資料ではできないことを取り入れたい。今回の授業では“動くグラフ”がそれに該当する。印刷物の資料だと年代ごとにどの程度の人口だったのかが一目でわかる。読み物としてはそのほうがよいが、授業で扱う場合には答えが先に示されていることになる。そこでデジタル教科書を活用し、適宜、グラフの動きを止めて生徒に問いかけるという活動を行うことで、資料から予想を立てるおもしろさを体感させたいと考えた。



- ① 資料提示：資料をクリックして拡大
 - ② 画面中央下のボタンをクリックして、グラフをアニメーションで表示。
 - ③ もう1度ボタンをクリックして、アニメーションを一時停止。
- ※グラフを途中まで表示したところで、生徒にその後の変化を予想させる。

▲ 800年以降の人口の移り変わり (p.183)

◆生徒の反応：

○人口減少社会と言われても、100年後に日本の人口が4000万人程度(推計)になることは驚きのような感じだった。さらに、フィリピンの介護士養成学校の学生30人程度のうち、日本で働きたいと言った学生はたった1人だったこと(映像資料)も印象に残ったようで、こうしたことも有権者になった際には考えてほしいと伝えた。

生徒の声

- ・人口の増減の理由に食糧生産があることがわかった。また日本の人口が減少したのはこれまでに4度しかなく、その4度目が現在だと聞いて、自分たちが歴史の変わり目にいると実感した。
- ・日本は移民の受け入れに関して高いハードルを設けていることがわかった。今後、どのような政策をとっていくにしても、一長一短があり、難しいと感じた。

◆授業を終えての感想・今後の課題：

○「イギリスとインドの綿織物の輸出額の移り変わり」(p.140・**3**)や「主な国の失業率の移り変わり」(p.212・**4**)など、教科書には特徴的な変化を示すグラフが多数掲載されている。デジタル教科書を活用して、これらを“動くグラフ”として提示すると効果的であると感じた。